

視察（研修）報告書

令和元年 7 月 15 日

府中市議会議長 様

会派名又は

議 員 名 日本共産党

日 時	2019年7月8日
視察（研修）先	安川電機（北九州市）
視察（研修）項目	産業用ロボットの開発
参 加 者	檜崎征途、岡田隆行
視察（研修）内容	・国内有数の産業用ロボット開発にかけた努力や工夫を知る。 ・安川電機未来館や歴史館を見学する中で、産業用ロボットやクリーンロボットなど、技術向上の工夫と努力を知る。
所 感	・安川電機は自動車産業界を中心に導入されてきた産業用ロボットを生産する企業。日本で1，2位のシェアを持っている。 現在のテーマは「人間とロボットの協働」。2日後の地元紙にもその取り組みが紹介されていた。府中市もこうした技術を今以上に導入し、さらに発展していければと思った。

視察（研修）報告書

令和元年7月15日

府中市議会議長 様

会派名又は

議員名 日本共産党

日	時	2019年7月8日
視察（研修）先		いのちの旅博物館（北九州市）
視察（研修）項目		博物館の集客に向けた工夫
参加者		檜崎征途、岡田隆行
視察（研修）内容		・当博物館が来館者を増やすためにどのような工夫や努力をしているのか。 ・府中市の博物館にどのような点が入り入れられるか。 ・北九州市とのかかわりはどのようなになっているか。
所感		・生命の進化の道筋を自然と人の両面から展示解説している。 ・自然史ゾーンでは、太古からの生き物の進化の様子や現在の地球上に住んでいる多様な生き物を豊富な実物資料によって紹介しているのが興味深い。 ・歴史ゾーンでは、旧石器時代から現在までの北九州の人々の暮らしや営みについて各時代を代表する実物資料をもとにたどっているため、その流れをわかりやすく理解できる。 ・全体を通しては、未来に向けて私たちの生き方を考えるため「いのちの旅」をコンセプトにしているところが素晴らしいと思った。 ・現在の府中市にも国府など古くからの遺産が多い。博物館や資料館をよく考え工夫して建設していく必要があると痛感した。

視察（研修）報告書

令和元年 7 月 1 5 日

府中市議会議長 様

会派名又は

議 員 名 日本共産党

日 時	2019年7月9日
視察（研修）先	臼杵市（大分県）
視察（研修）項目	魅力づくりの取り組み。そのヒントを学ぶ。
参 加 者	檜崎征途、岡田隆行
視察（研修）内容	・府中市とほぼ人口で同規模な臼杵市が「すみたい田舎ベスト3」（雑誌「宝島」主催：「小さなまち」ランキング）で総合部門3位に選ばれている理由は何か。 ・城下町臼杵の街づくりプランでとくに重視して取り組んでおられることは何か。 ・市としてどのような移住定住支援を行っているのか。
所 感	・臼杵市は人口3万7千人とほぼ府中市と同じである。工業では醸造業が盛んで、味噌醤油を中心に江戸末期から主要産業として発展。そこも府中市と似通っている。農業は元祖カボスで有名な柑橘類を生産している。また、甘しょや葉煙草も生産している。 ・昔ながらの町並み・景観を守る取組が民間主導で始まり、昭和58年に「第6回全国まちなみゼミ」が臼杵市で開催されたことを契機に町並み保存の意識が高まった。昭和62年「臼杵市歴史環境保存条例」を制定。平成3年より補助金を出し、歴史的建造物の修復改修工事に着手。実際歩かせてもらいましたが『回遊性をもつ散策路』が素晴らしかった。 ・この市も人口減が大きな課題。少しでも移住・定住を進めようという取り組みがなされていた。移住希望者向けの『モニターツアー』を年3回～4回行ったり、「臼杵ハウス」と名付けた『移住体験滞在施設』で最長7日間、臼杵の雰囲気

気を体感してもらったりしている。また、「住宅取得に対する補助」「Uターン者への実家などの改修費補助」など移住・定住支援（補助）にも積極的に取り組んでおられた。こうした取組の結果、去年は95世帯220人が移住している。府中市も学ぶところは多い。

- ・ 仕事さがしにも市が大いに力を発揮しているのに感心した。いくら住みやすい環境でも雇用がなければなかなか移住は進まない。ハローワークからの情報を毎日入手。HPで知らせておられた。ここも府中市に取り入れていきたい。

視察（研修）報告書

令和元年7月15日

府中市議会議長 様

会派名又は

議 員 名 日本共産党

日 時	2019年7月10日
視察（研修）先	豊後高田市（大分県）
視察（研修）項目	子育て・教育施策と定住促進の取り組み
参 加 者	檜崎征途、岡田隆行
視察（研修）内容	・府中市と比べると、人口でやや少ない（2万3千人）の豊後高田市が「すみたい田舎ベスト3」（雑誌「宝島」主催：「小さなまち」ランキにング）で総合部門1位に選ばれている理由は何か。 ・「子どもの医療費無料化」「給食費無料化」など全国に先駆けて子育てにやさしいまちづくりに取り組まれているが、その取組の発端や経緯、現在の状況、ならびに地域住民の声などを知る。（子育て世代が住みたい伊田舎部門第3位、シニア世代が住みたい田舎部門第3位）
所 感	・大分県豊後高田市。ここも全国ランキングの高位置を占めている。その1つが「子育て世代が住みたい田舎」部門。移住者が大幅に増加し、その8割が30代までの世代である島根県飯南町がトップ。第2位の茨城県常陸太田市について堂々3位を獲得。総合部門では今回も1位だったのが豊後高田市（人口約2万3千人）である。今回の視察の中心は、子育てに取り組む若者世代に対してどのような子育て支援事業を行っているのかを学ぶことが中心だった。 ・子育てのまちづくりの工夫の1つ目は、小さな子どもさんのいる方がだれでも気軽に利用できる室内公園のような「花っこルーム」をはじめ、病児・病後児保育事業、大型遊具の整った「中央公園」、最新の情報システムが導入さ

れている「市立図書館」など、子育てしやすい環境がきちんと整っていることにある。

- ・ 2つ目の工夫は小中学校の給食費、高校卒業までの医療費の無料化を実施しているところにある。市営の無料塾「学びの21世紀塾」など地域と一体となった取り組みによって、子どもたちの学力は長年トップグループを誇るとともに、スポーツにおいても全国及び大分県で上位入賞が相次いでいる。
- ・ 3つ目の工夫としては、子育て応援誕生祝い金は最大100万円を実現しています。子どもさんの誕生に対して、第1子、第2子に10万円、第3子に50万円、第4子以降は4回に分割して年1回交付しています。このほかスマートフォン向けの「子育て支援アプリ」、子育て支援サイト『いいKAMO』で子育てに役立つ情報を知らせている。延長保育や休日保育、さらには「ママ家事サポート事業」などユニークな取り組みも魅力的と言える。